

障害学生支援に関する授業担当教員アンケート (令和4年度)

1. 実施の目的

今後の障害学生支援活動の充実や方向性を検討するため、障害のある学生が受講する授業の担当教員へアンケート調査を実施し、障害学生支援センターで提供している合理的配慮や取り組みの有効性について検討した。

2. 方法

令和4年度前期・後期において本学で開講された授業のうち、障害のある学生が受講した授業の担当教員139名（常勤82名、非常勤57名）を対象に、令和5年1～2月にかけて、郵送及びGoogleFormsによるアンケート調査を実施した。そのうち、51名から回答を得た（回収率36.7%）。なお、回答者は常勤教員25名（30.5%）、非常勤講師26名（45.6%）であった。

3. 結果および概要

各質問項目の結果は以下の通りである。

「問① 担当した授業（障害のある学生が受講した授業）と行った配慮について」

担当した授業における障害のある学生の障害種（複数回答）を尋ねたところ、視覚障害19件（29.7%）、聴覚障害29件（45.3%）、病弱・身体虚弱3件（4.7%）、発達障害9件（15.6%）、障害名不明3件（4.7%）であった（図4-1）。

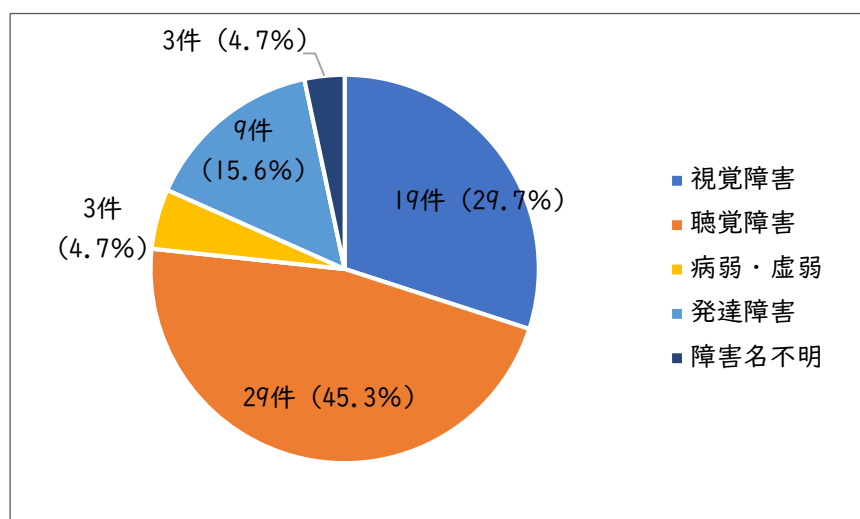


図4-1 支援件数とその割合

担当している授業で障害のある学生へ行った配慮についての結果を図 4-2～図 4-5 に示す。

視覚障害のある学生へ行った配慮は、「教材の拡大（10 件）」が最も多く、続いて「教材のテキストデータ化（9 件）」、「教室内座席配慮（8 件）」と続いた（図 4-2）。

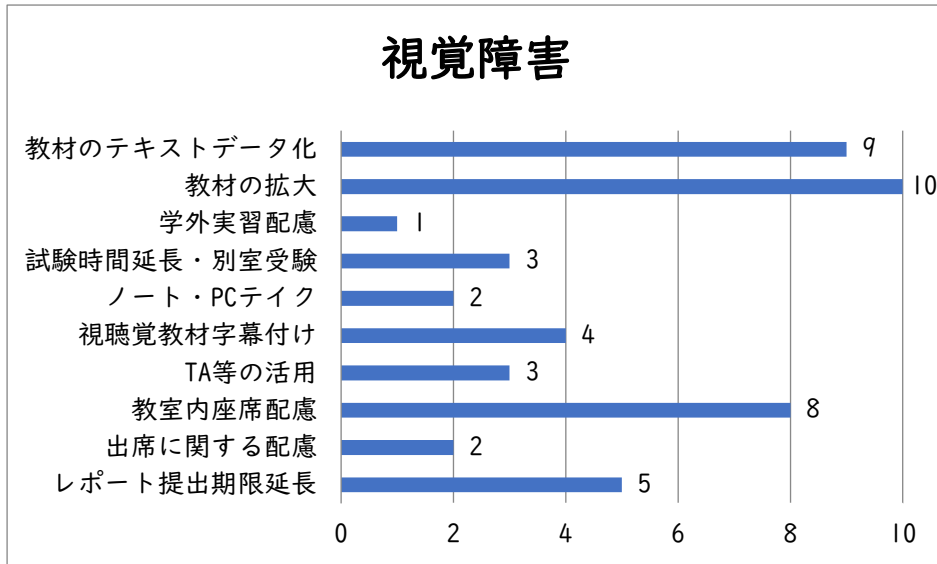


図 4-2 視覚障害のある学生へ行った配慮

聴覚障害のある学生へ行った配慮は、「ノート・PC テイク（9 件）」が最も多く、続いて「視聴覚教材字幕付け（8 件）」「FM 補聴器/マイク使用（8 件）」「その他（8 件）」が多く「その他」の内容としては、重要事項の文字化、視聴覚教材の文字起こし資料やパワーポイント読み原稿の提供などがあつた。

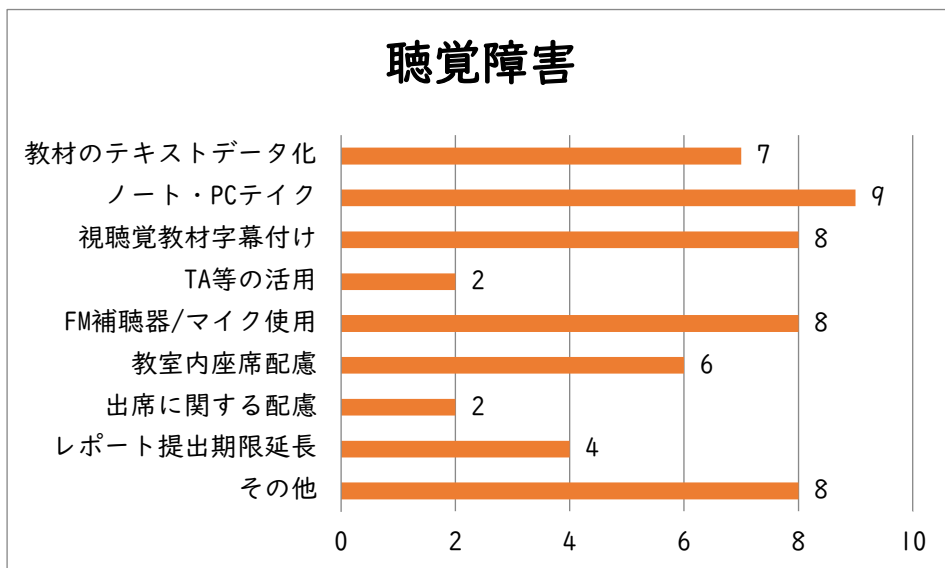


図 4-3 聴覚障害のある学生へ行った配慮

発達障害のある学生へ行った配慮は、「その他（3件）」が最も多く、配慮内容としては、使用教材の事前送付や重要事項の文字化などであった。

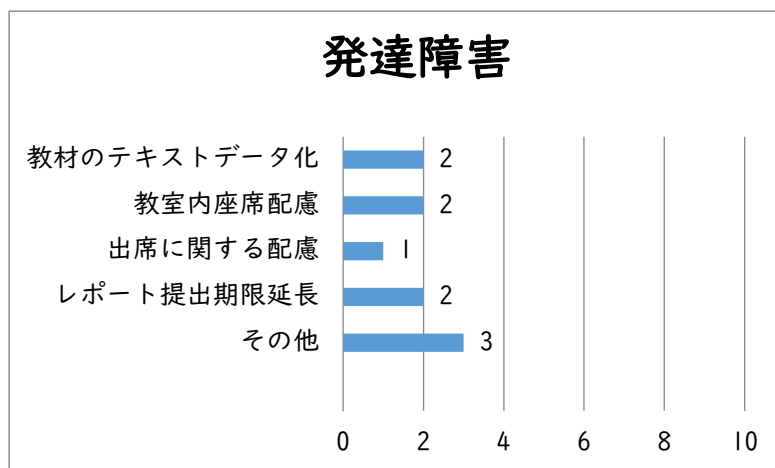


図 4-4 発達障害のある学生へ行った配慮

病弱・虚弱の学生および障害名不明の学生へ行った配慮は、「出席に関する配慮（2件）」や「レポート提出期限延長（2件）」であった。

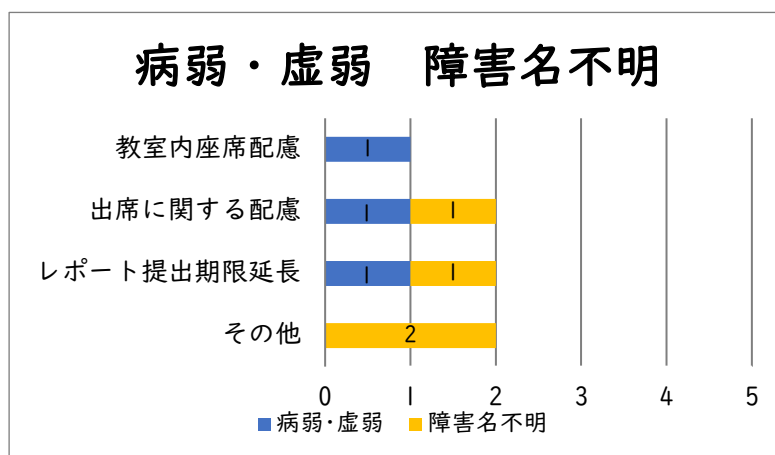


図 4-5 病弱・虚弱、障害名不明の学生へ行った配慮

以上の結果から、「教材のテキストデータ化」は聴覚障害のある学生だけでなく、視覚障害や発達障害のある学生への支援として共通して行われ、「レポート提出期限延長」については障害種に関わらず全体的に行われた。

「問② 障害学生支援センターが提供している支援（パソコンテイク、字幕挿入、情報提供等）は適切であったと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-6のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が17名、「少しそう思う」という回答が2名と、障害学生支援センターで行っている配慮に一定の評価が得られたと考えられる。

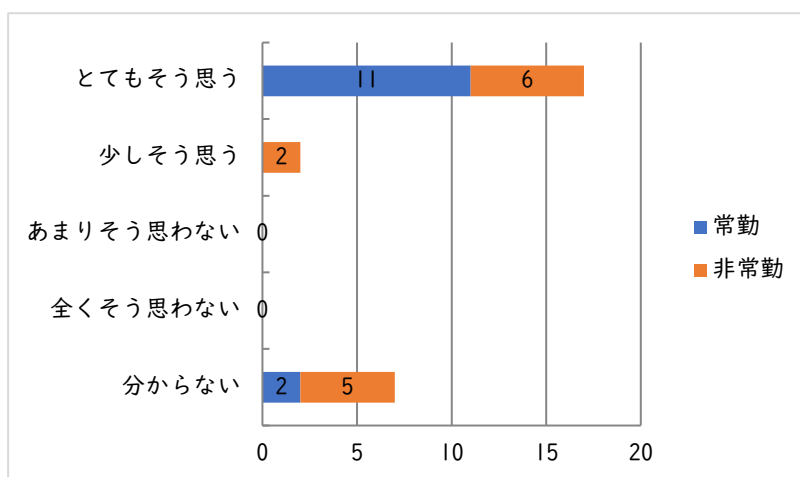


図4-6 障害学生支援センターが提供した支援は適切だったと思うか

「問③ 障害のある学生への配慮は、授業の達成目標という観点から見て十分だと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-7のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が16名と最も多く、次いで「少しそう思う」という回答が9名で「分からない」という回答が2名であった。

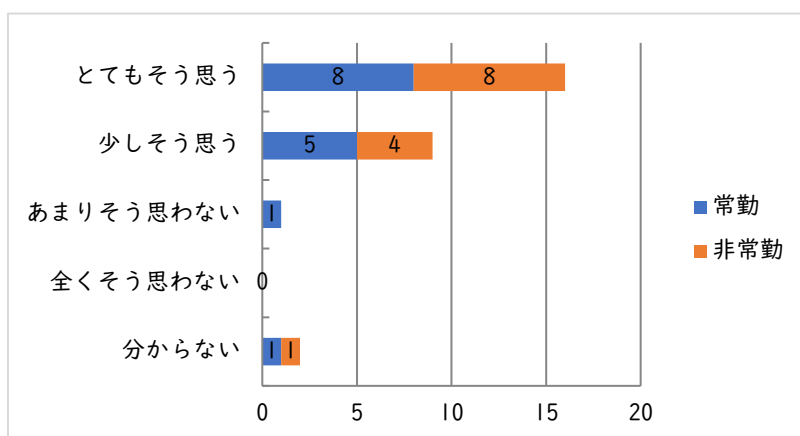


図4-7 障害のある学生への配慮は授業の達成目標という観点から見て十分だと思うか

「問④ 障害のある学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図 4-8 のような結果が得られた。回答者全体では、「少しそう思う」が 15 名と最も多く、次に「とてもそう思う」が 4 名であった。一方、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した人数は 2 名であった。

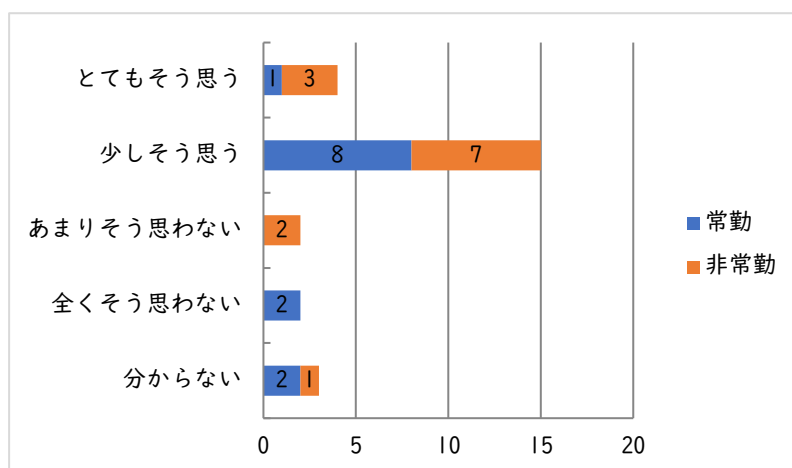


図 4-8 障害のある学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思うか

「問⑤ 障害のある学生へ授業を行っていくうえで FD が必要だと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図 4-9 のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」が 9 名、「少しそう思う」が 15 名、「あまりそう思わない」が 2 名、「全くそう思わない」が 1 名であった。

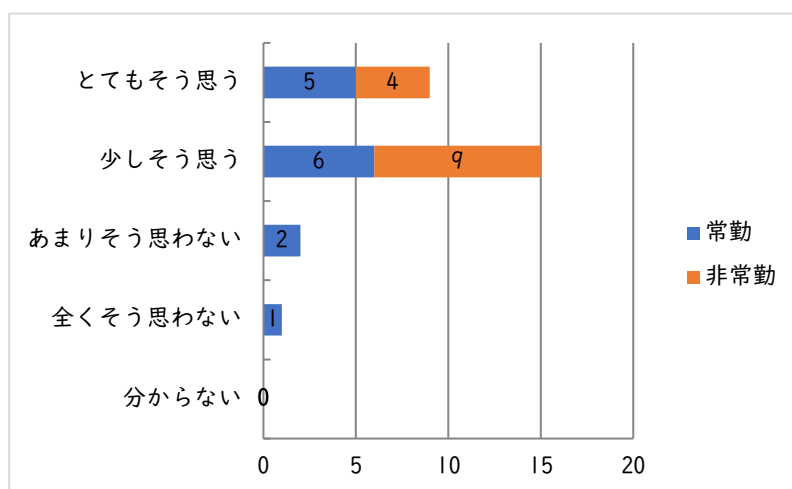


図 4-9 障害のある学生へ授業を行っていくうえで、FD が必要だと思うか

「問⑥ 障害のある学生への支援について、うまくいったと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-10のような結果が得られた。回答者全体でみると「とてもそう思う」が7名、「少しそう思う」が13名、「あまりそう思わない」が4名、「分からない」が2名であった。授業を行うにあたってうまくいったと考えている授業担当教員がいる一方、あまりそう感じていない教員も一定数存在した。

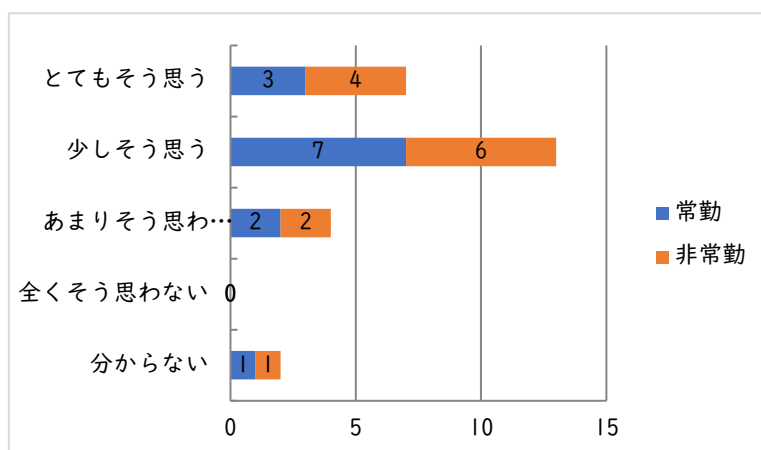


図4-10 障害のある学生への支援について、上手くいったと思うか

「問⑦ 障害のある学生が自分の必要な配慮事項について、主体的に先生方に伝えたいと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-11のような結果が得られた。「とてもそう思う」が6名、「少しそう思う」が7名、「あまりそう思わない」が7名、「全くそう思わない」が3名であった。学生に対して授業の初回に配慮依頼文書を説明するよう指導を行っており、引き続き指導を行う必要性が示唆された。

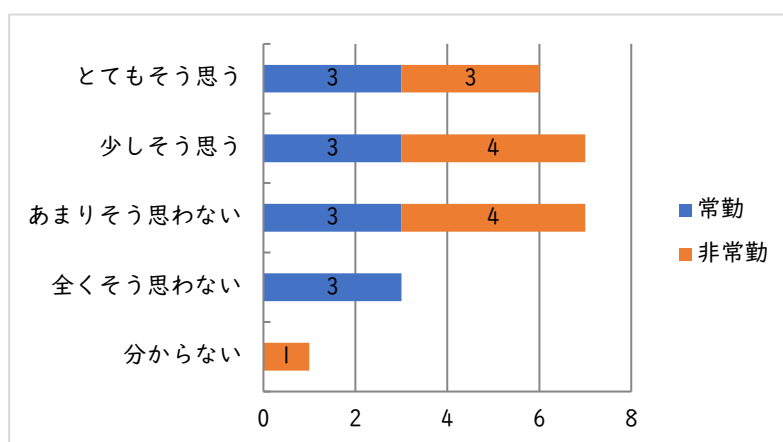


図4-11 障害のある学生が自分に必要な配慮事項について主体的に伝えたいか

「問⑧ 障害学生支援センターより送付した、障害のある学生への配慮依頼文書は十分に理解されましたか。」

上記について尋ねたところ、図 4-12 のような結果が得られた。「とてもそう思う」と回答した教員が 15 名、「少しそう思う」が 9 名であり、「あまりそう思わない」が 1 名、「分からない」が 2 名であった。障害学生支援センターより送付している、障害のある学生への配慮依頼文書について、授業担当教員より概ね理解が得られたと考えられる。

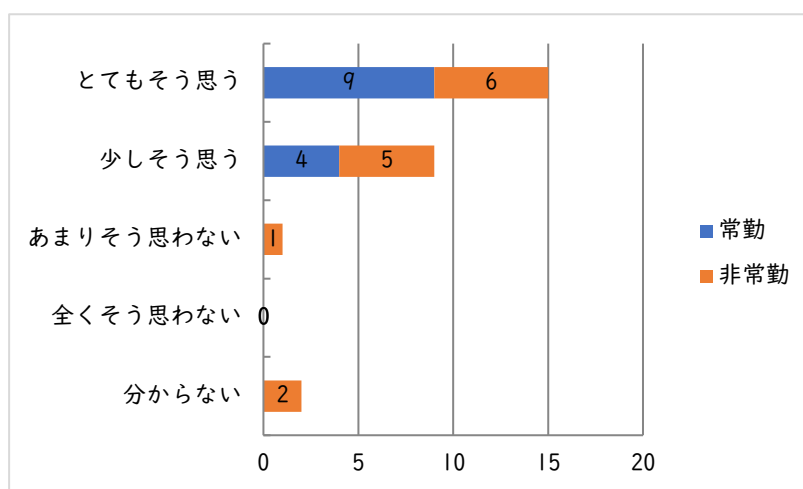


図 4-12 配慮依頼文書は十分に理解できたか

本アンケート調査の結果から、授業担当教員は概ね障害のある学生への配慮依頼文書を理解し、授業において配慮を行っていると考えられた。今後は、授業担当教員と配慮を希望する学生が互いに配慮事項について確認や説明を行う方法について検討する必要がある。